

平成29事業年度に係る 業務実績に関する報告

平成29事業年度における主な成果

教育

- ① アドミッション・ポリシーに基づいた入学試験の見直し
- ② カリキュラム等の改善
- ③ 教学マネジメントシステムの確立
- ④ 静岡大学との共同大学院を軸にした人材育成の強化

研究

- ① 光先端医学教育研究センターを核とする研究体制の強化
- ② 光先端医学教育研究センターを核とする研究実績
- ③ ナノスーツ研究開発の推進、産学官連携の推進
- ④ 総合人間科学・基礎研究棟の完成

診療

- ① 臨床教育の充実と専門医の育成
- ② 安心・安全な医療の提供
- ③ 高度な医療の提供
- ④ 浜松医療センターとのテレビ会議システム開通
- ⑤ 病院経営の改善

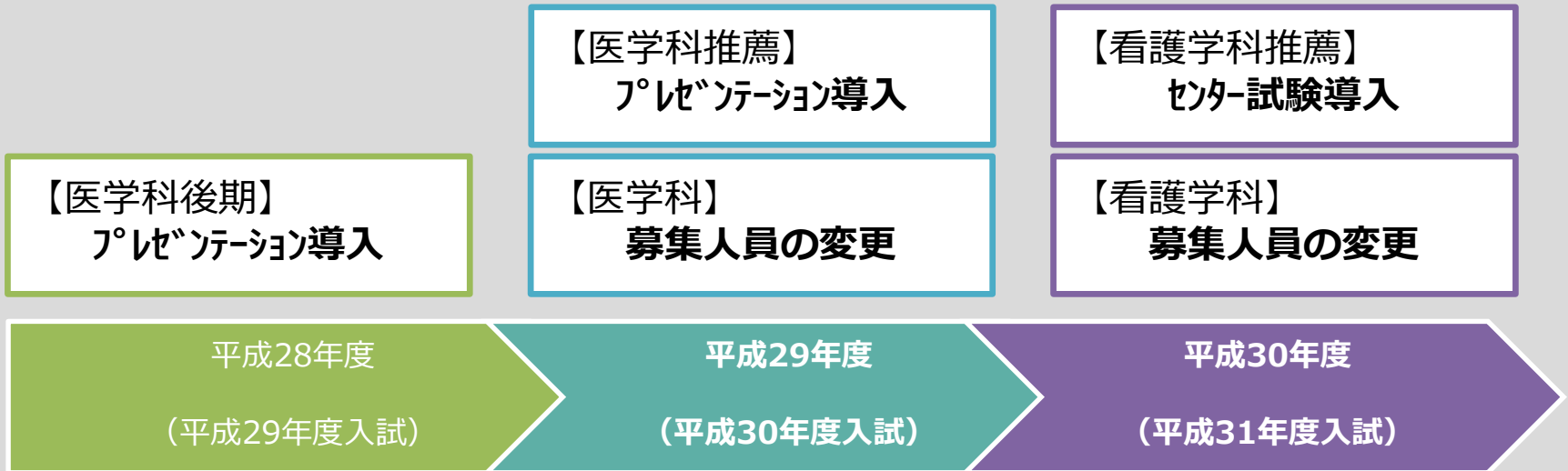
業務運営

- ① 委員会の統廃合
- ② 男女共同参画の推進
- ③ 資金確保の取組
- ④ PPP手法による外来患者用立体駐車場の整備、情報セキュリティ強化

教 育

教育① アドミッション・ポリシーに基づいた入学試験の見直し

多面的・総合的に評価・判定する個別選抜方法の見直し



平成30年度入試 (実施)

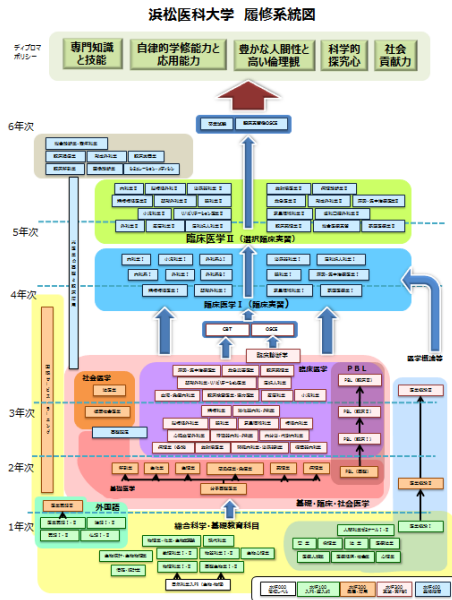
学科	区分	募集人員変更
医学科	推薦	30→25人 (新たにプレアドミッション導入)
	一般 (後期)	10→15人

平成31年度入試 (予告)

学科	区分	募集人員変更
看護学科	推薦	25→20人 (新たにセンター試験の導入)
	一般 (前期)	35→40人

教育② カリキュラム等の改善

カリキュラムマップの策定・科目ナンバリングの完了



カリキュラムツリー（左図）を基に科目ナンバリングを完了

学修目標の達成と授業科目の関係性を明確化・体系化

（科目ナンバリングの一例）

授業科目	分野コード	水準コード	通し番号
薬理学	A	02	208
病理学	A	02	209
健康社会医学	A	02	210

国際人養成のための取組

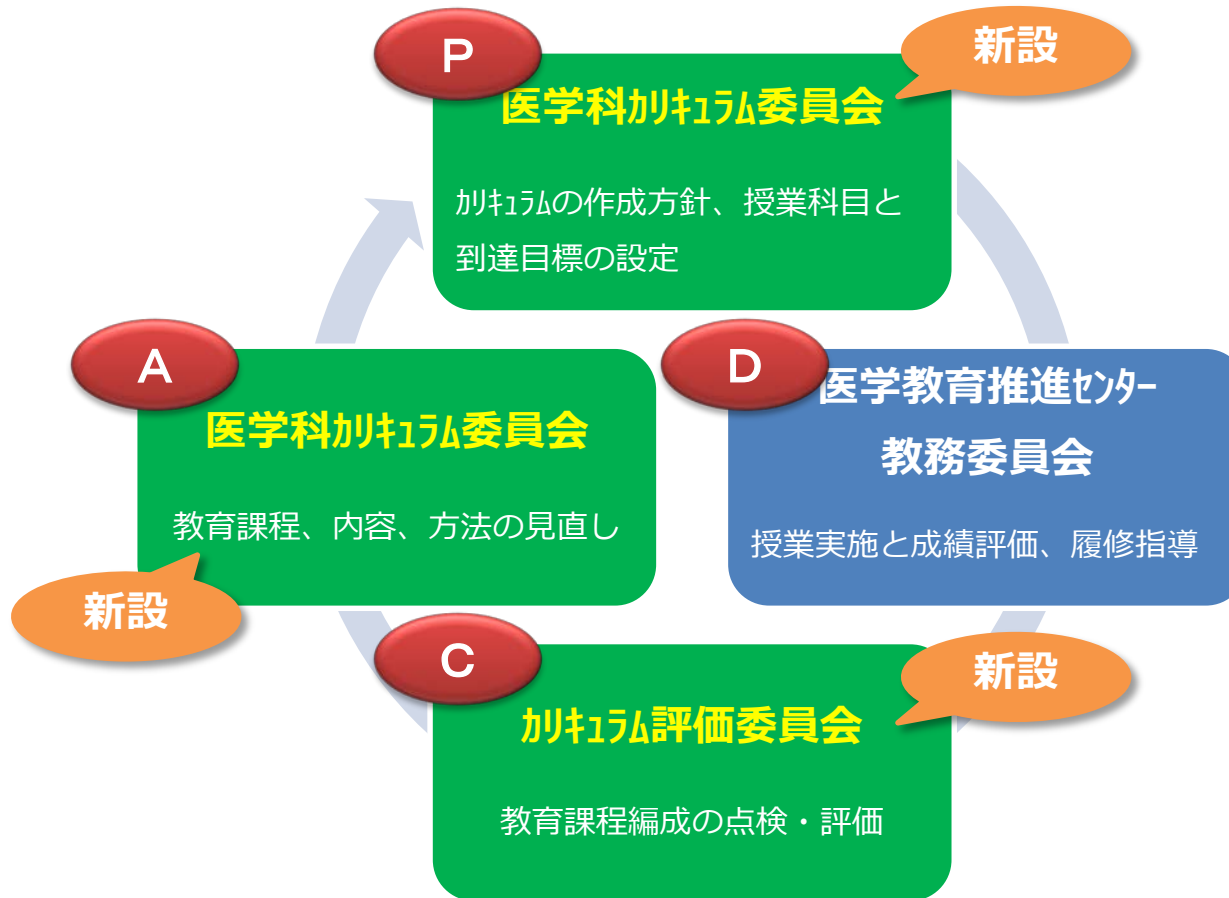
- ✓ 医学英語の基礎力を更にレベルアップ
- ✓ 英語によるコミュニケーション能力の向上

- 医学英語Ⅲの新規開講
- イングリッシュ・カフェを開催
- 医学科・看護学科1年次生全員に受験料支援でTOEICを受験



教育③ 教学マネジメントシステムの確立

教育の質保証を担保するPDCAサイクルの確立



医学科カリキュラム委員会、カリキュラム評価委員会を立ち上げ、教育プログラムの策定、実施、点検・評価、改善の4つの機能を分担するよう役割見直し

教育④ 静大との共同大学院を軸とした人材育成の強化

光医工学共同専攻の新設（H30.4.1開講）

入学定員：浜松医科大学 3名／静岡大学 5名
学位：博士（光医工学）

期待される効果

- 高度先端医療への貢献
- 革新的光技術の創造
- 新科学領域の創出
- 健康医療産業のイノベーション
- 光医工学学術分野の発展

養成する人材

- 光医工学に関する専門的な知識と技能を身につけ、高い見識、幅広い国際感覚、高い倫理観を有する人材
- 光・電子工学技術を医療・医学に活用し、診断・治療・予防に応用することができる人材
- 医療・医学の現場が抱える諸問題を解決するための技術を研究開発できる人材
- 学術を探究し、さらには産業振興に貢献する革新的技術を創造できる人材

中心的学問分野：
光医工学分野

光医工学共同専攻

取得する学位：
博士（光医工学）

基礎光医工学部門

新しい光技術での生体情報取得と評価の基本原理の構築と基盤となるデバイス開発

ナノデバイス、ナノフォトニクス、受発光デバイス、テラヘルツ分光、近赤外イメージング、多光子顕微鏡、超解像顕微鏡などの基本原理、デバイスの研究

専門科目

基礎科目

専攻共通科目

応用光医工学部門

イメージング、センシングを中心とした新しい光技術の医療への実装と最適化

イメージセンサ、放射線イメージング、ナノ操作、光生体計測、新規イメージング手法による診断、イメージング技術を活用した治療機器の開発

社会の要請に応え、かつ、両大学の強み・特色を生かした

光技術を基盤とした医・工連携分野に精通した光医工学の高度専門人材の育成

静岡大学

浜松医科大学

【強み・特色】

- ・先進的イメージングテクノロジー、ナノテクノロジー
- ・革新的受発光・電子工学による生体計測技術

【強み・特色】

- ・光・電子工学技術による革新的医療技術と医療機器開発
- ・光・イメージング技術による治療法・診断法の開発

研 究

研究① 光先端医学教育研究センターを核とする研究体制の強化

光先端医学教育研究センター

フoton医学研究部

産学官連携推進部

ナノスーツ開発研究部

先進機器共用推進部

医用動物資源支援部



URT



URT

URTを2名採用し、センター内の当該部署に配置、**研究支援業務の開始**

連携

各講座 等



- 外部共同研究機関とナノスーツ法のMTA契約を締結（締結実績：5件）
- URT等が支援した研究が主要科学雑誌である「Nature Communications (IF:12.124)」に掲載

研究② 光先端医学教育研究センターを核とする研究実績

光先端医学教育研究センター

発足2年目。
研究成果等が活発化

●活用論文数とその平均IF

	H28年度	H29年度
論文数	265 (49)	261 (55)
IF値合計	539.6 (94.7)	634.6 (209.6)
1論文当りIF (平均IF)	2.0 (1.9)	2.4 (3.8)

※数値は本学全体、()が当該センター活用論文数を示す。

●研究成果の一例



ヒト甲状腺イメージングを行う光CT装置の実証試験機である8チャンネル時間分解計測システムでヒト頸部を計測。

甲状腺の三次元血流・酸素代謝イメージングに成功

研究③ ナノスーツ研究の推進と産学官連携の取組

ナノスーツ開発研究部の設置

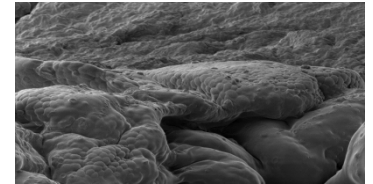
光先端医学教育研究センター

フoton医学研究部
医用動物資源支援部
産学官連携推進部
先進機器共用推進部

新設

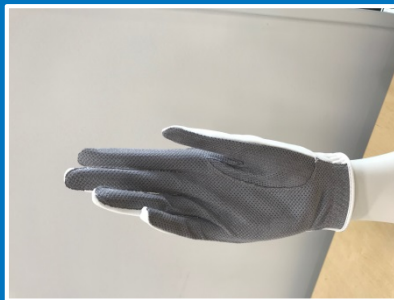
ナノスーツ開発研究部

同部に准教授も配置



ナノスーツ技術を利用した異分野融合の体制強化

産学官連携の取組 (例: 「ナノぴた」の製品化)



ナノぴた (生活アシスト手袋) の製品化

学内の技術シーズ

組織横断的な支援

光先端医学教育研究センター

知財活用推進本部



共同で製品化

民間企業

研究④ 総合人間科学・基礎研究棟の完成

分散配置だった
総合人間科学講座

倫理学

心理学

法学

数学

物理学

化学

生物学

英語

集約配置



- 平成30年1月完成
- 集約配置し、各講座のさらなる発展を目指す**総合人間科学・基礎研究棟（1,435m²）を自己資金で新築。**

診 療

診療① 臨床教育の充実と専門医の育成

初期研修医、専攻医の増加を図る

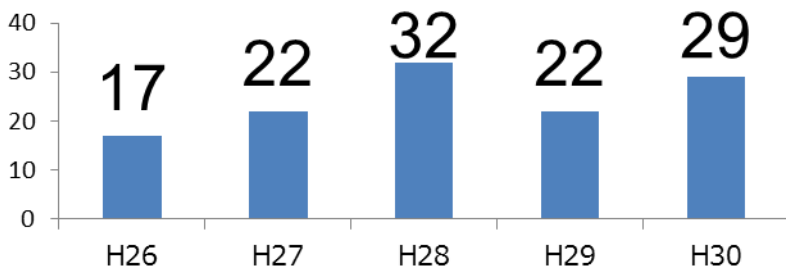
各研修プログラムの充実

新専門医制度の動向把握

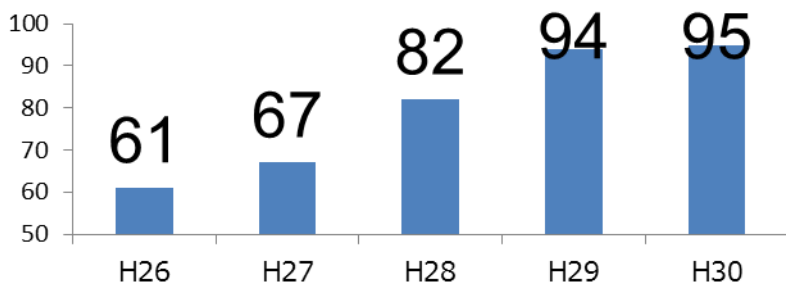
積極的な広報活動

地域医療支援学講座の設置

初期研修医数の推移

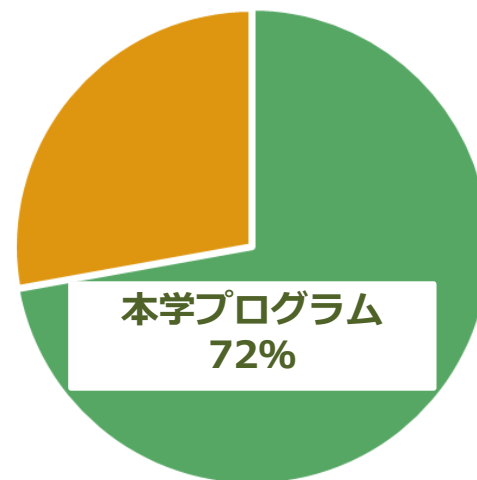


専攻医数の推移



H30年度からの新専門医プログラム
静岡県内の応募者数：115人

うち、83人（県内の72%）が本学へ応募

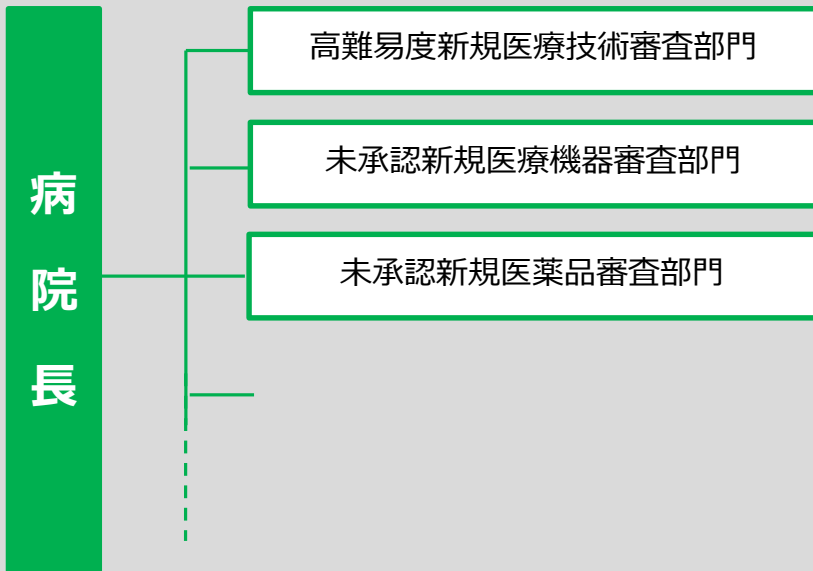


診療② 安心・安全な医療の提供

安心・安全な医療の提供のための体制強化

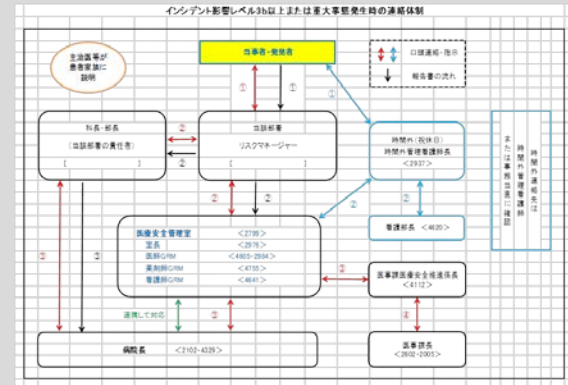


高難易度新規医療技術等の部門を 病院長直下の体制に



インシデント報告体制の整備・迅速化

- 診療科長会議等での情報共有
- インシデント管理システムのバージョンアップ
- レベル3B以上の連絡体制の整理



診療③ 高度な医療の提供



● ロボット支援下手術

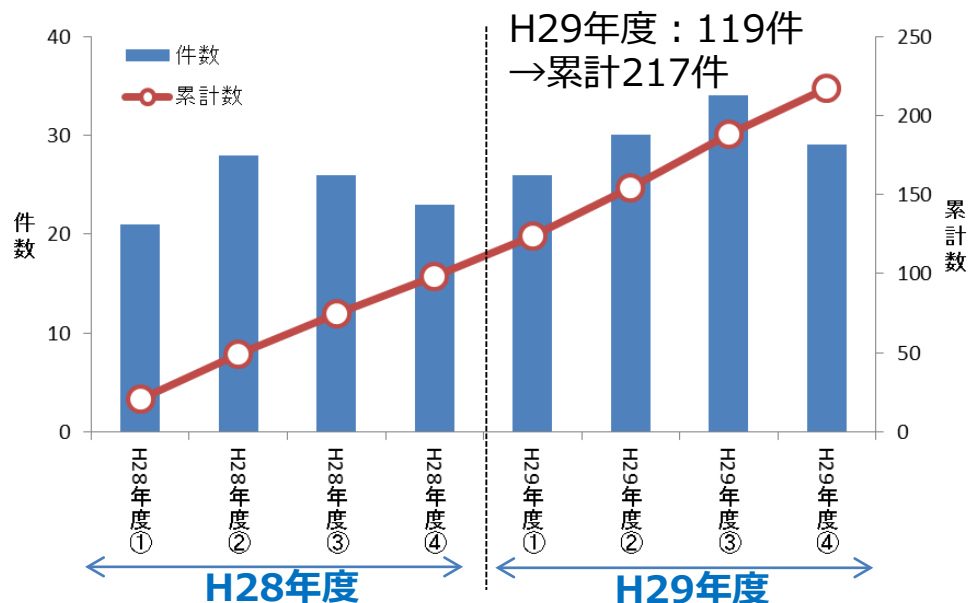
新たに
泌尿器科 3 人、呼吸器外科 1 人、上部消化
管外科 1 人の計 5 人が術者資格を取得した。
(H30.4現在 術者資格総数 8 人)

低侵襲医療提供体制の強化

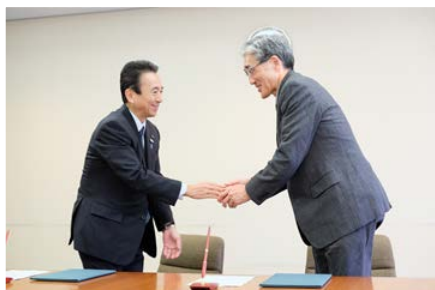
- 呼吸器外科領域において、
縦隔腫瘍手術で県中西部で初、
肺がん手術で県下初の実施。
(当院の特色ある医療の一つに)

- H30年度に新たに保険適用された
12のダヴィンチ手技のうち、6つ
の術式を届出 (H30.5現在)。従
前の 2 つの手技と合わせ、計 8 つ
の手技が可能。

● ロボット支援下手術件数推移 (H28~29年度)



診療④ 浜松医療センターとのテレビ会議システム開通



浜松市長と学長との締結式の様子

浜松市との包括協定を締結

教育、学術研究、健康・福祉及び産業振興等の各分野で**相互協力する包括協定を締結**

浜松医療センターと合同症例検討会を実施

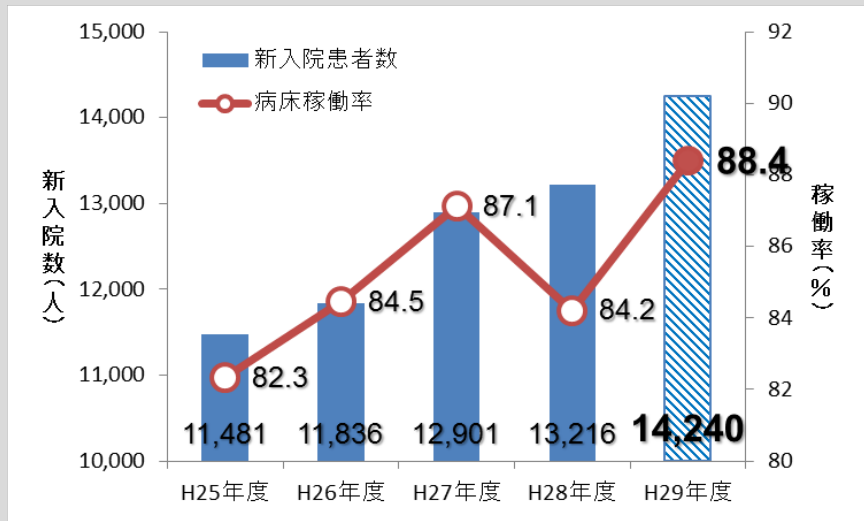


- 浜松医療センターとの間に、専用回線を用いて**テレビ会議システムを開通**。
- 合同症例検討会で、症例の迅速な情報共有や治療方針の決定など**病院間の診療連携を深める**。
- 診療面にける地域連携だけでなく、**教育研究等のコミュニケーション**としても期待

診療⑤ 病院経営の改善

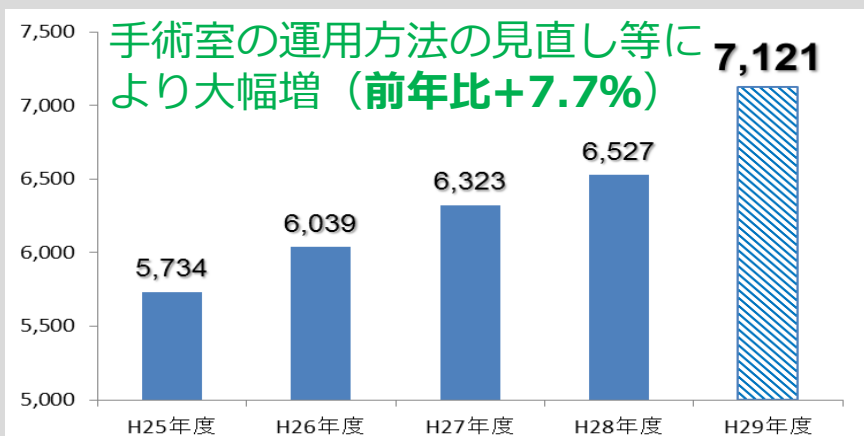
●新入院患者数、稼働率推移

平均在院日数を短縮しながら新患を増やし、
過去最高の稼働率と新入院数に。



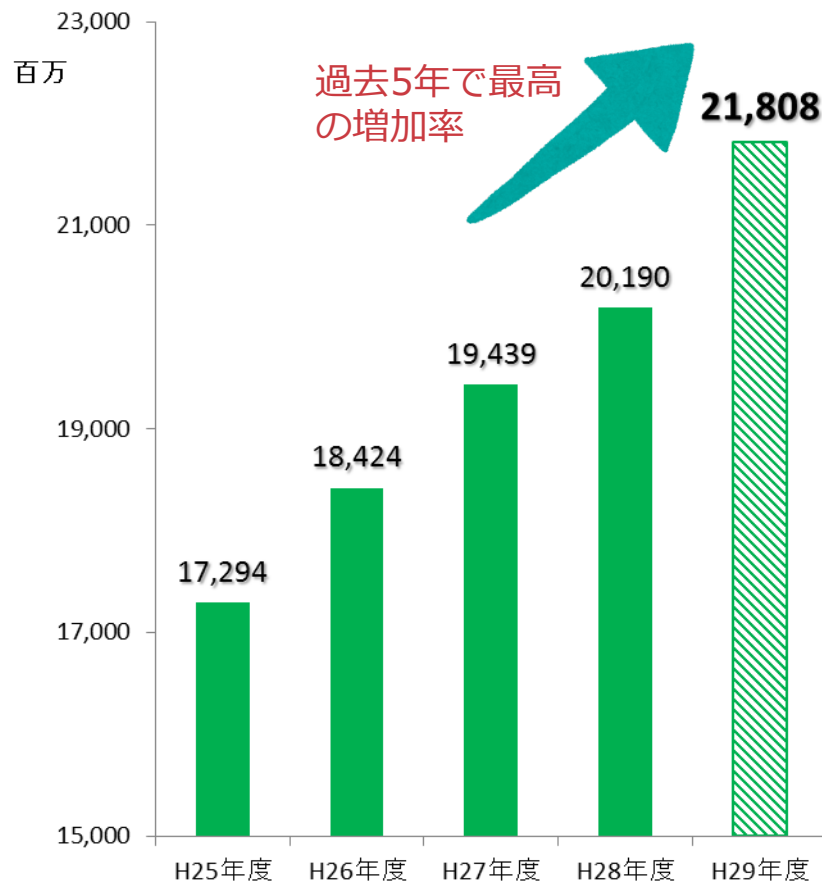
●手術件数推移

手術室の運用方法の見直し等により大幅増 (前年比+7.7%)



各種取組の結果、病院稼働額は
前年度比8%増 (+1,619百万) の
21,808百万円に到達

●病院稼働額 (入・外) の推移



業務運営

業務運営① 委員会の統廃合

会議の整理・合理化、教員の教育研究時間の確保

→ 3つの委員会を統合、6つの委員会を廃止（他の会議等に集約）。

施設マネジメント委員会

省エネ推進専門委員会

環境マネジメント委員会

統 合

施設・環境マネジメント委員会

がんプロジェクト育成委員会

アメニティー等改善検討委員会

臨床研究管理センター運営委員会

病理部連絡協議会

リハビリテーション部連絡協議会

周産母子センター連絡協議会

廃止

（他の会議等に集約）

業務運営② 男女共同参画の推進

「ふじのくに女性医師支援センター」の設置と専任医師を配置

ふじのくに女性医師支援センター

キャリア相談

働き方提案

短期トレーニング

各種の情報発信

専任医師配置



調整



県内病院や医局とのネットワーク構築で多様な復職プランを提案

発信



HP開設による県外から転入者や潜在医師への情報提供

病児・病後児保育室「ふわり」の開設

- 職員の多様な保育ニーズに応えるため、8月より運用開始。
- 当院小児科との連携により、安心・安全な環境を整備。



特筆する事項として文科省資料で紹介

病児・病後児保育施設「ふわり」開設

多様な保育ニーズに応えるため平成29年度に開設。

本院小児科との連携で安心・安全な保育環境を提供。



キャリア相談

- 専門医取得・更新
- 知識・手技習得

短期トレーニング

- 見学・研修

働き方の提案

- 大学コース
- 協力医療施設コース

子育て情報提供

- 託児所等情報
- 子育て相談

情報発信

- 講演会等開催
- ホームページ



働く女性医師 を応援



女性医師支援センター

女性医師が県内で活躍する仕組みを構築するため、学内支援のみならず県委託事業として地域へも支援。

センター専任医師を配置



専任医師を配属することで、常に利用者と同じ視点でサポートが可能。また、県内医療施設とのネットワーク構築にも寄与。

業務運営③ 資金確保の取組

大学基金確保のための継続的な取組

- ① 給与支給明細書へ募金案内を掲載
- ② 給与控除を用いた寄附制度を導入
- ③ 市中の信用金庫にパンフレットを配架
- ④ 宣伝用グッズ（BOXティッシュ等）の作成

平成29年度実績：
約4千万円（175件）

- 大学基金総額（H28～29年度）

1億円突破

- 第3期中の目標金額（3億円）の約38%まで達成！



有料広告枠の設定 等

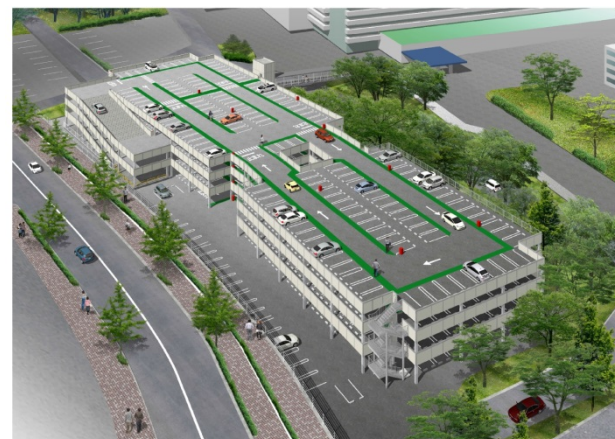
- 給与支給明細書に**有料広告枠を設定**。
- 利率の高いネットバンク運用に引き続き、既発債券の短期運用で利回りの高い**電力債による運用も開始**。

業務運営④ PPP手法による外来患者用駐車場整備 情報セキュリティの強化

PPP手法による外来患者用駐車場の整備・運営管理

本学初のPPP手法による 外来患者用駐車場の整備等事業

- 慢性的な駐車場不足改善のため、**外来患者用駐車場の増設と管理運営業務を委託。**
- 年間駐車場収入の一定額を業務委託費とすることで**安定的な管理運営を実現。**



平成30年10月完成予定

情報セキュリティの強化

強化のため
様々な取組を
実施

- 情報セキュリティインシデント対応チームの立ち上げ、フローチャート等を整備。
- インシデント対応訓練の実施
- 県警サイバー犯罪対策担当者を講師に招いたセミナーの開催
- Microsoft社とオプション契約（office365ATP）を締結